

<国語の調査結果に見られる特徴と現状>

全体的には全国平均を上回っており、「話すこと・聞くこと」が特に良い。普段から自分の意見を伝えたり、先生や友達の話をよく聞いたりすることができているので、学力調査の結果にも表れている。

一方で問題形式では「記述式」、内容では「書くこと」が特に県平均や全国平均を下回っている。問題をしっかり読んで内容を理解し、指定された条件に合わせて解答することに課題がある。しかし、正答まではいかないが一部の条件に合わせて解答した児童も多い。これは普段の授業で意識して取り組んできたことが成果として表れている。

<算数の調査結果に見られる特徴と現状>

どの内容、問題形式でも全国平均を上回っている。しかし、個々の問題で見えていくと「図形」と「データの活用」に課題がある。「図形」では公式を覚えているだけでは答えられない問題で誤答が多く見られた。「データの活用」では、問題の意味を理解し、文章で答えることができない児童が多かった。

<学校質問紙調査の結果に見られる特徴と現状>

特に良い項目として「教職員の資質能力の向上」が挙げられる。これは従来の校内研修に代えて、ICTの研修を数多く行ってきたことが考えられる。

「自分の考えが相手に伝わるように工夫して発表できている」の質問では全国や県で「できている」と回答した学校がごく少数だが、本校はこれに含まれている。これに関しては児童質問紙調査における同様の質問でも全国や県を大きく上回っている。

<児童質問紙調査の結果に見られる特徴と現状>

基本的な生活習慣が整っていて、何事にも前向きにとらえている児童が多い。全体的に肯定的な回答が多く、児童の素直さを伺うことができる。また、タブレット端末の重要性を理解し、積極的に活用していることがわかる。5年生までにおける授業中でのPC使用回数（毎日使用）は全国や県を大幅に上回っている。

<これからの具体策>

学習面では、指定された条件に合う文章を書く力や、教科を問わず問題を理解し正しく答える力を身に付けていく必要がある。

(授業における具体策)

本調査では、とても長い問題文の中に複数の資料が含まれていて、何を問われているのか理解するのが難しい。普段の授業では問題文を噛み砕いてわかりやすく提示したり、敢えて助言をせずに児童の力を試すような機会を設けたりして問題に慣れていく。また、「自分の言葉で書く」ことをどの教科でも意識させていく。

(教員の研修体制における具体策)

教材研究日(今年度の金曜日5校時日課)に加え、授業改善チェックシートを県教委のモデルを参考に自校で作成し活用している。また、今年度より高学年の教科担任制で行う教科を増やし、実態に合うような工夫した授業ができるようにしている。

(社会, 理科, 図工, 家庭科 その他にも音楽, 外国語, 書写は専科)

タブレット端末を用いた指導法の研修はこれまでも行ってきたが、今後もより良いものを授業内容や実態に合わせて活用できるように、研修を積極的に行っていく。